

星空案内人(星のソムリエ[®])制度 Tips

柴田晋平

(星空案内人資格認定制度運営機構)

2020年9月20日 (No. 2)¹

¹MyReference doc/uguide/ug1.tex

序

私事ではありますが、ことし(2020年)3月に大学を定年退職し、この機会に、星空案内人制度のスタートアップガイドの改定や実施団体の実務の便利帳のようなものを書こうと思いました。4、5月は退職関係の手続き的なことやCOVID-19への対応などがあり落ち着いた時間がとれませんでした。最近執筆を開始しました。ところが今の調子でいくと完成までにはかなり時間がかかりそうですし、一方では、現実はいまぐろしく変化しています：COVID-19によるパンデミック、新規団体の申請、実施団体からの問い合わせ、受講生からの苦情など、執筆に時間をかけることもできなという焦りも出てきました。

それで、完成したもののリリースするのではなく、部分的に書いたものをTipsとして少しずつリリースし、最後にたくさんのTipsをまとめて完成とした方が現実的だと思うに至りました。そこで今後このシリーズを順次書いていくことにしたいとおもいます。全国の実施団体の皆様、これからこの制度を利用したい皆様、そして全国の星空案内人の皆様、どうぞこのTipsシリーズをご利用ください。

2020年9月1日

リリース記録

今回

No.2: 2020.09.19

第1章 制度の実施団体の条件

第2章 キット望遠鏡の使い方

過去

No.1: 2020.09.01

第1章 星空案内人(星のソムリエ)モデル

第2章 講座運営の典型パターン

第3章 星のソムリエとは？と聞かれた時

目次

序	1
第1章 モデル	5
1.1 星空案内人(星のソムリエ)モデル	6
1.1.1 はじめに	6
1.1.2 星空案内人(星のソムリエ)モデル	6
1.2 制度の実施団体の条件	9
1.2.1 星空案内人は普通の資格認定制度とは異なる	9
1.2.2 一般的な資格・検定制度の場合	9
1.2.3 星空案内人資格認定制度の場合	11
1.2.4 実施団体の制度利用の方針	12
1.2.5 実施団体になれない状況	12
1.2.6 実施団体の苦勞	13
1.2.7 ふろく：実施団体のいろいろな形態	16
第2章 講座運営	24
2.1 講座運営の典型パターン	25
2.1.1 準案内人資格取得まで： 星空案内人(星のソムリエ) 講座	25
2.1.2 講義科目の単位認定	26
2.1.3 準案内人の認定	27
2.1.4 準案内人から案内人へ	28
2.1.5 実技科目の単位認定	28
2.1.6 資格取得後	30

2.2	キット望遠鏡の使い方	31
2.2.1	工作キットの望遠鏡で「望遠鏡を使ってみよう」の 単位認定はできるか	31
2.2.2	星空案内人の資格をキット望遠鏡を使った星空案内 で取得	31
2.2.3	望遠鏡の仕組みを知る	32
第3章	星のソムリエ	33
3.1	星のソムリエとは？と聞かれたとき	34

第1章 モデル

1.1 星空案内人 (星のソムリエ) モデル

1.1.1 はじめに

星空案内人資格認定制度がスタートしたのは 2003 年 (@やまがた天文台)、全国制度となったのが 2007 年のことです。その後、この制度は「星のソムリエ」の愛称とともに普及し、すっかり定着した感があります。今日は、星空案内人 (星のソムリエ) 資格認定という制度や、星空案内人の活動がどうしてこれまで盛んになったかという理由を考えたいと思います。(創設した私自身も初めの頃はなぜうまくいっているのかはつきりとした理由がわかりませんでした。) その理由を知ることが、制度を利用して成功するためのコツを知ることになると思うのです。これは、実際に星のソムリエの講座を運営しているスタッフの運営のヒントになるでしょう。

また、これから制度の導入をしたいと考えている皆様には導入の意図 (思惑) とこの制度の働きが一致するかどうかの判断にも使えます。たとえば、観光での町おこし村おこし (観光立国) といった最近のトレンドの中で、星を観光資源と考えることがあるかもしれません。もし、その事業のなかで星空案内人資格認定制度を利用したければ、制度が機能する仕組みをよく理解した上で戦略を練る必要があるでしょう。単に資格制度で資格を持った人を増やそうとしても目的は達成できるものではありません。

1.1.2 星空案内人 (星のソムリエ) モデル

ここ 17 年ほどの歴史を顧みて、星空案内人 (星のソムリエ) 資格認定制度の働き・仕組み (機能モデル) を私の理解した範囲で述べたいと思います。

星空案内人制度を導入すると、制度の実施団体 (現在 41 団体) では、まず、資格認定につながる講座を開講します。星空・宇宙が好き、あるいは興味のある人が集まってきて、まず、(1) **講座では基本的なことを学びます (楽しい!)**。次に講座が終わると、(2) **実技練習、案内の実際の練習**

などで実際の星空観察や観望会など様々な体験をします。それらの場では (3) 受講生は、主催者 (実施団体) のスタッフ・講師、過去の講座の卒業生などのサポートをいただきながら学びます。

このような流れの中に二つの重要な働き (function) があります。

一つ目の働きが「ハッピー二乗の法則」と呼んでいるものです。宇宙や星空、星の関わる文化などに興味のある人が講座で学ぶことは大きな喜びです。(もちろん、そのように講座のカリキュラムが組み立てられています。) これが一つ目のハッピーです。一つ目のハッピーでおしまい：つまり、講座を受けて (時には資格をもらって)、解散、というのがよくあるパターンです。星空案内人制度は、講座で学んでそれでおしまいではありません。次に、学んだことを星空案内という場で人に伝えようとします。すると、星空案内をしてもらった皆さんが大喜びで、その喜んでいただけたことを見て (体験して) ハッピーを感じるすることができます。これが二度目のハッピーです。これがあると、また、学んで、また、伝えたくくなります。このプラスの循環が巨大な力を生み出すのです。これを**ハッピー二乗の法則**と言います。「学んでハッピー、伝えてハッピー」という標語にまとめられます。

「伝えてハッピー」の場は観望会のようなしつかりとした場はと限りません。仕事帰りに「あの明るい星が金星だよ」と隣人に教えてあげると言った日常的なものでも「伝えてハッピー」の瞬間がやってきます。多くの受講生が、二千元程度の組み立キットの小型望遠鏡を街中に持ち出して、月のクレータを見て喜んでいただいたときの嬉しかったことを、満面の笑みを浮かべて語ります。

二つ目の働きは、「宇宙人の帰巢本能」と関係しています。「宇宙人の帰巢本能」は私の造語なので何のことやら？という感じだと思いますので説明します。多くの受講生は、星空が好きだったり、宇宙に対して興味があっても、周りの人に星空や宇宙話題を投げかけたり、語り合ったりする機会がないことに苦しんでいます。星空や宇宙に何かしら惹かれる人は少なくはないと思います。これを「**宇宙人の帰巢本能**」と呼ぶことに

します。日常生活の多忙さの中においても、この宇宙人の帰巢本能を忘れないで、星空・宇宙に興味をもって勉強したい・会話したいと強く思う人はそう多くはありません。しかし、そう思う人たちには話し相手がいらないのです。思い切って星空案内人の講座を受講したり、実施団体の活動に参加すると、星空・宇宙のことがいっぱい話せてびっくりし、共感できてまたびっくり、感激することとなります。星空案内人の受講生に感想を聞くとほとんどの人が「星空・宇宙の話題で会話をしても大丈夫な人/会話が弾む人と出会えたことが最高の幸せ!」と言います。

星空案内人制度がうまく機能している星空案内人講座では、「ハッピー二乗の法則」がうまく働き、みんなが「宇宙人の帰巢本能」を満たして幸せを感じています。この二つの機能がうまく働いているとその講座の実施団体は仲間が増え、受講生・卒業生の満足度も高くなります。

このことがわかっていると実施の方針が立ちます：

- (1) 講座開講、資格授与だけでは不足。資格で誘惑してもうまくいかない。
- (2) 実施団体、講座スタッフ、受講生の交流システムが形成されている必要がある。
- (3) 実技を一緒にやる時間がたっぷりある。
- (4) 星空案内をたくさん経験できる環境が必要。
- (5) 一人ひとりの個性が大切なので、自由に羽ばたくことのできる雰囲気が必要。(押し付けるようなことがないように)
- (6) 当然ですが、講座の授業は楽しいものが提供されている必要があります。

ver.2020.9.1

1.2 制度の実施団体の条件

1.2.1 星空案内人は普通の資格認定制度とは異なる

星空案内人制度は「資格」という言葉を使っていますが、一般的な資格や検定とは異なります。混同すると失敗します。「資格」という言葉に惑わされることなく、上手に星空案内人制度を利用していただきたく思い、この節を書くことにしました。

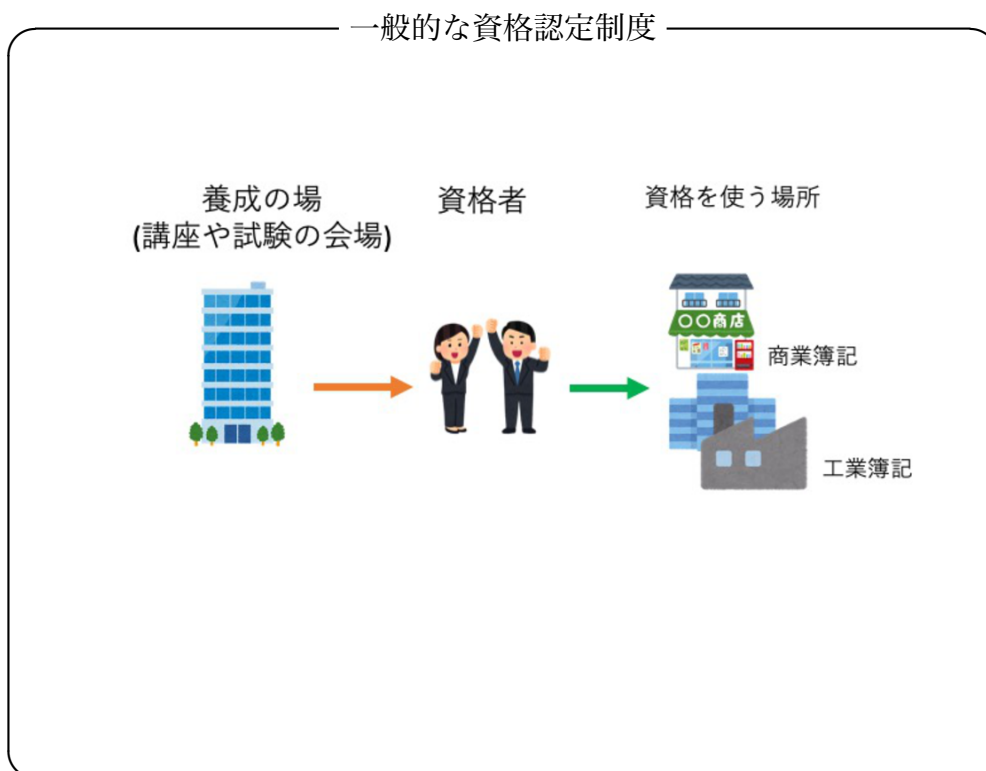
星空案内人資格は二つの特徴(一般的資格と異なること)があります。

1. 完成された星空案内人を資格認定するのではなく、「星空大好き」「宇宙に興味がある」といった小さなころごしを持った方の背中をちょっと押してあげて、星空案内の世界に入って大きな花を咲かせていただきたい、そのきっかけをこの星空案内人の資格で、という気持ちで作られていること。そのために、知識や技能の達成度を確かめる検定の要素は弱く、一方、星空・宇宙が好きなみなさん同士の交流を大事にしています(これは制度の理念でもありますので1.1節を参照ください)。
2. 資格を持った人を「養成する場」と「活動する場」が共存しています。その共存する場が本制度の実施団体です。

1.2.2 一般的な資格・検定制度の場合

まず比較のために一般的な資格認定制度を見てみましょう。

例えば、簿記検定(商工会議所主催)を考えてみると、下図のように、講座を開講したり試験を実施する「養成の場」と、資格を取った人が「活動する場(資格を使う場)」が別になっています。



講座を開いたり試験を実施するのは全国の商工会議所だけでなく、商業高校であったり民間のビジネススクールだったりします。そして、実際に簿記を使って仕事をするのは、小さな商店から大きな工場に至る様々な事業所です。

このように養成機関が独立している理由は大きく二つ考えられます。一つは、資格を取りたい人が多くいて、養成事業で採算がとれるから、もう一つは、養成を独立させても簿記を使う現場でそれほど支障がないからです¹。

一つ目の条件を満たしても、二つ目の条件を満たさなければ、養成機関だけが独立することはありません。実際、養成機関だけに資格認定を任せられない資格の時は、「実務経験〇年が必要」などという付加追加条件をつけていますね。また、例えば医師の資格では、養成を専門とする

¹実際には資格をもっている現場では役に立っていない、または、現場で仕事ができても簿記の原理が理解できていないので応用が効かないなど様々な悩みを持った方がおいでです。

機関は無く、養成機関が同時に医療の現場です。

1.2.3 星空案内人資格認定制度の場合

星空案内人制度の実施団体は、星空案内人の養成と同時に星空案内人が活躍できる場を持っています。図にすると以下のようなになるでしょう。



この仕組みのおかげで、講座受講生、そして、準案内人になってから実技練習や試験を受ける皆さんは、実施団体の活動に触れることができます。これが、星空案内人のエネルギー源である「ハッピー二乗の法則」や「宇宙人の帰巣本能 (仲間作り)」(1.1 節) を体験する機会になります。また、受講生、案内人の皆さんが実施団体の事業に協力してもらえるので実施団体も幸せになります。

このように、星空案内人資格認定制度は養成の場と活動の場を分離できない性質をもっています。一緒になっているから発展します。

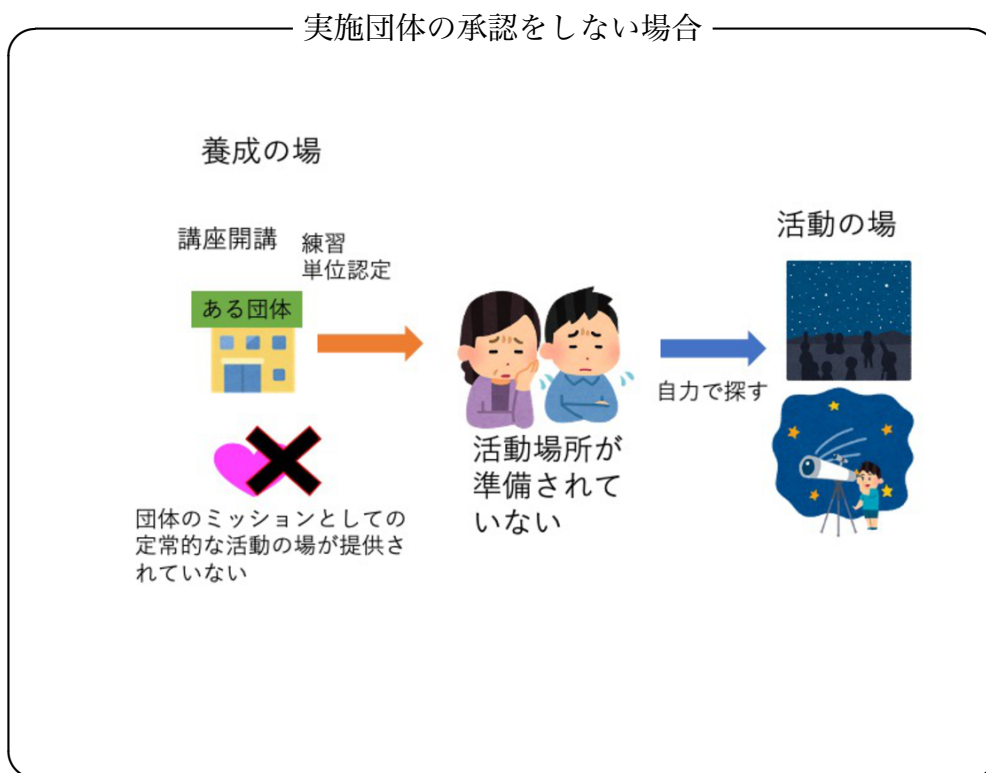
1.2.4 実施団体の制度利用の方針

実施団体のみなさんには、以下のような方針で制度を生かしていただければと思っています。

- (1) 実施団体はそれぞれ独自のミッションを持って活動している団体です。そして、ミッションの中に、星空・宇宙に関することが含まれています。
- (2) ミッション実現のために星空案内人制度を上手に利用してください。ミッションに合わせて育てたい案内人像をもって、「うちの星空案内人はこれです！」と誇りをもって案内人を養成してください。
- (3) 実施団体は案内人制度を導入することによって、受講生が集まり、星空案内人が育ち、実施団体は賑やかになるでしょう。自らの事業への協力者を格段に増やすことができます。
- (4) 受講生や育った案内人の皆さんは星空・宇宙に関する希望を実施団体の提供するサービスの中でふくらませることがができるでしょう。

1.2.5 実施団体になれない状況

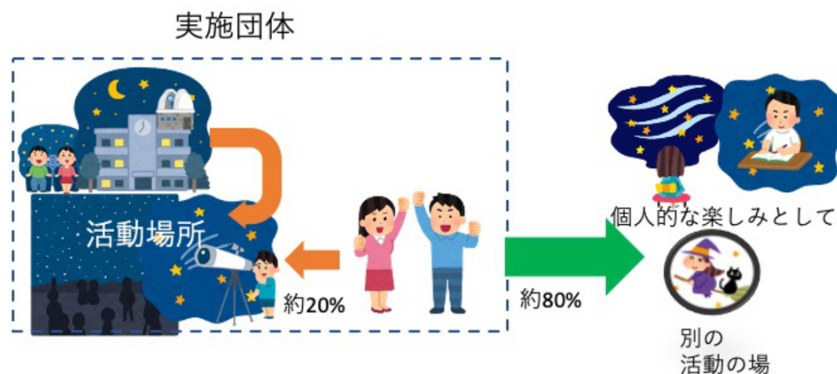
下図のように、ある団体が星空案内人の活動の場を持たない(あるいは、持っていたとしても星空案内人の養成の場として提供していない)状態で講座を開いて資格認定することは星空案内人制度では認めていません。資格発行すること自体を目的としてこの制度を利用することはできないといってもよいでしょう。受講生が不幸にならないためにもこれは重要なことです。



実技練習の場や実技の認定試験の場が資格だけのために設けられたもので、その団体の定常的な星空・宇宙に関する事業が伴っていないものであれば、ハッピー二乗や仲間づくりの体験ができませんので、星空案内人制度の良さは全く発揮されないでしょう。

1.2.6 実施団体の苦勞

受講生の全員が実施団体の活動に参加してくれるわけではもちろんありません。他の活動場所を見つけたり、遠方からの受講の場合は活動はその受講生の地元でということになります。また、講座受講だけで充分という方もいます。



受講生のほとんどが実施団体のメンバーになっても逆に多すぎてサポートが行き届かなくて困ることもあります。なかなか、難しいものです。私の経験では、卒業後に実施団体に残る方が20%くらい。残り80%が他の場所で活動する(そのなかの50%-30%は時々遊びに来てくれたり連絡がつく)くらいが良いと思います。

案内人の養成にはかなりのマンパワーと費用がかかるので、どうしても効率というものを考えないわけにはいきません。講座を開いて準案内人養成までは比較的効率がいいのですが、実技練習をして案内人まで養成するのはとてつもなく労力が要るものです。

そこでおすすめなのが「二段ロケット方式」です。講座期間では実技科目については受講のみで練習は行いません。そして、まず準案内人まで養成します。ここまでがロケットの一段目です。次に、実技の練習・試験まで進む方は別に登録していただきます。これを「二段ロケットに乗る」といっています。二段目に乗った方に対してのみ実技練習、認定を集中しておこないます。私の参加する小さな天文学者の会では二段目に乗る方には必ず会費を払って会員になってもらっています。いずれにせよ、

二段目をはっきりすることで、実技練習に割くマンパワーを最小限にし、経済的にも助かるようにします。

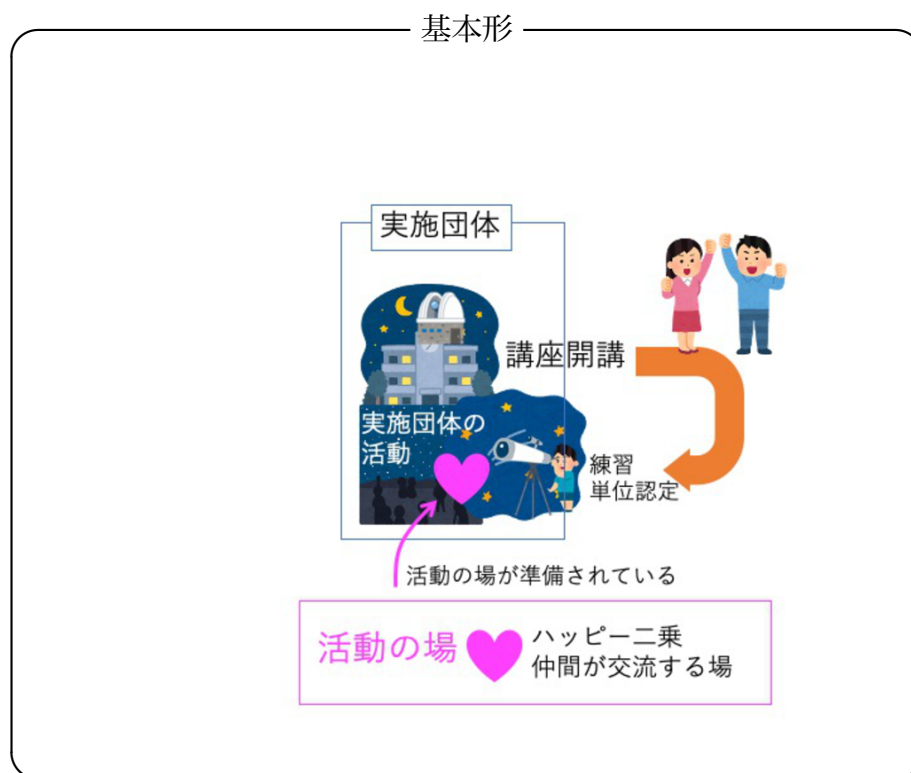
実施団体の上手な運営についてはまた別の章で詳しく検討することにして、この話題はここまでとしたいと思います。

1.2.7 ふろく：実施団体のいろいろな形態

この機会に実際に存在する実施団体のいろいろな形態を整理したいとおもいます。(2020年秋の時点での実施団体のまとめです)

基本形 実施団体はミッションとして宇宙・星空を楽しむ、あるいは天文普及の事業/活動をしています。実施団体は、講座を開講し、また、実技の練習の場を提供し、星空案内人(準案内人を含む)の資格認定をします。受講生、資格を取った案内人の皆さんは実施団体の活動の体験をすることができます。

図式的には以下のようなようです。



実施団体は、育てた案内人さんが実施団体の事業に参加し、仲間になってくれることを期待しています。実施団体のミッションは実施団体固有のものですから、そのミッションに合わせて固有の育てたい案内人像を持って案内人を養成します。

基本形の実施団体 (その 1) :

- 科学館、公開天文台、公立・私立の文化施設など。
- 上記の施設などの指定管理者制度などで運営を任されている NPO 法人などの団体
- 天文同好会など市民のグループ

ちょっと違った感じに見えるかもしれないスタイルとして実施団体が観光協会、リゾートホテルなど観光施設があります。これも同じ基本形になっています。

事業として宿泊者向けのガイドツアー、エンターテイメントとしての観望会などを定常的に行なっています。これらの場を利用して学びます。お客様を迎えた有料のエンターテイメントの中で練習や単位認定するのは無理があるので、いろいろ工夫をして実施可能な形で練習や単位認定するところが苦勞になります。

基本形の実施団体 (その 2) :

- 地方地自治体の部署や観光協会などが地元の観光施設を利用して
- リゾートホテルなど民間企業

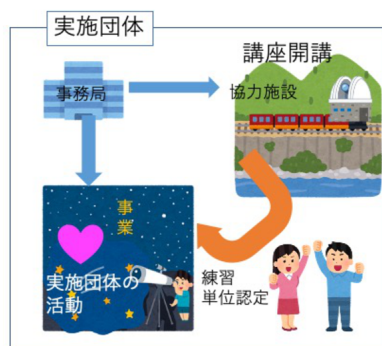
同じ基本形なのですが、実施団体が学校の場合もあります。授業の一環として講座を開催する場合や公開講座とする場合です。実践の場は、クラブ活動、学校祭、オープンキャンパス、アウトリーチ活動などの行事、卒業研究など様々です。日常の活動頻度は他の基本形より少ない傾向があります。一方で、卒業後の活動が大きな期待になります。卒業生の活動が実施団体のミッションに貢献するか、そこが実施団体の腕の見せ所ということになります。教員養成系では学校の先生になってからの活躍を期待しています。

基本形の実施団体 (その 3) :

- 大学など (教員養成系を含む)
- 高校など (クラブ活動の中で)

拠点となる施設がない場合 これまで扱ってきた基本形は実施団体の拠点の中に講座開講も活動の場も同居していましたが、両者が地理的に分離している場合があります。

実施団体の拠点/事務所から離れた場所、星が見やすい施設などを借りて講座を開講し(合宿タイプの場合が多い²)、星空案内実践の場所は、実施団体が行う定期的な観望会や出前観望会です。



実施団体活動の場が案内人養成の場になっているので、基本形の条件を満たしています。しかし、受講生や案内人の皆さんと実施団体の交流の確保することが難しいことが多く、この点が課題になります。改善策としては、合宿だけでなく一部の講座を活動の場に分散させることが考えられます。

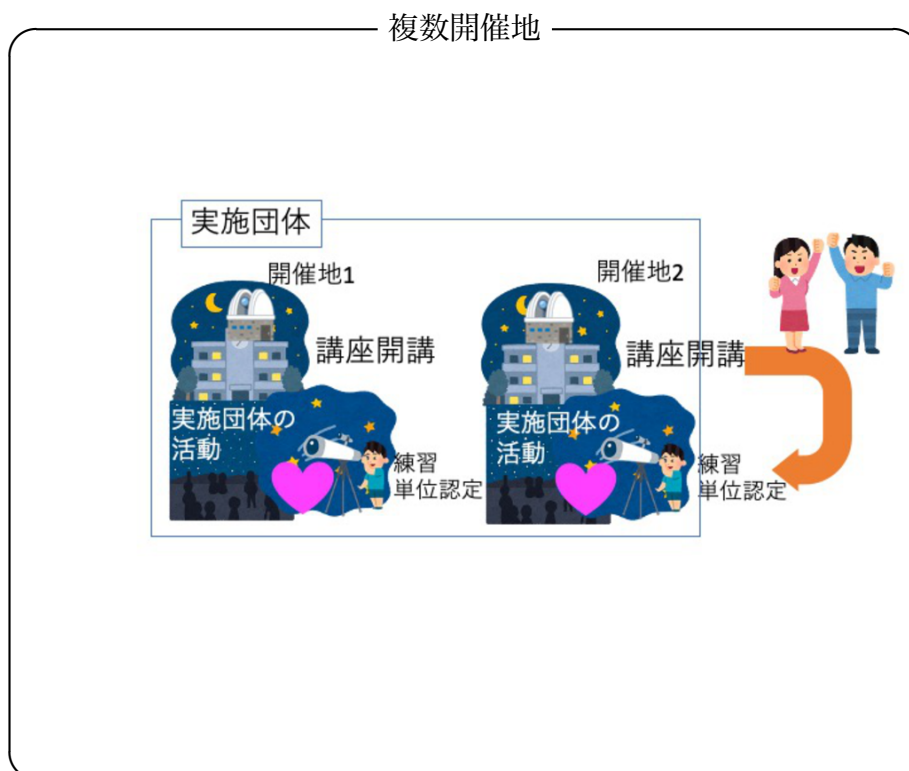
天文同好会などで固有の事務所などが無い場合も開催場所には苦労します。資格をとった案内人さんと実施団体とを結びつけるための仕組みをいろいろ工夫しなければなりません。しかしなんといっても実施団体の主催する活動が盛んであれば本制度の導入は成功すると思われれます。

基本形の実施団体(その4)：

²運営機構では合宿タイプよりも3ヶ月から一年かけてじっくり学ぶタイプを推奨しています。

- 基本形(その1)のような施設を持たない、企業等。
- 市民のあつまった天文同好会などで所属施設がないような場合

複数開催地 実施団体が複数の施設の運営に携わっていることにより、開催地がマルチになる場合があります。それぞれの開催地に養成の場と活動の場を持っているので、基本形が二つ並んでいる場合です。



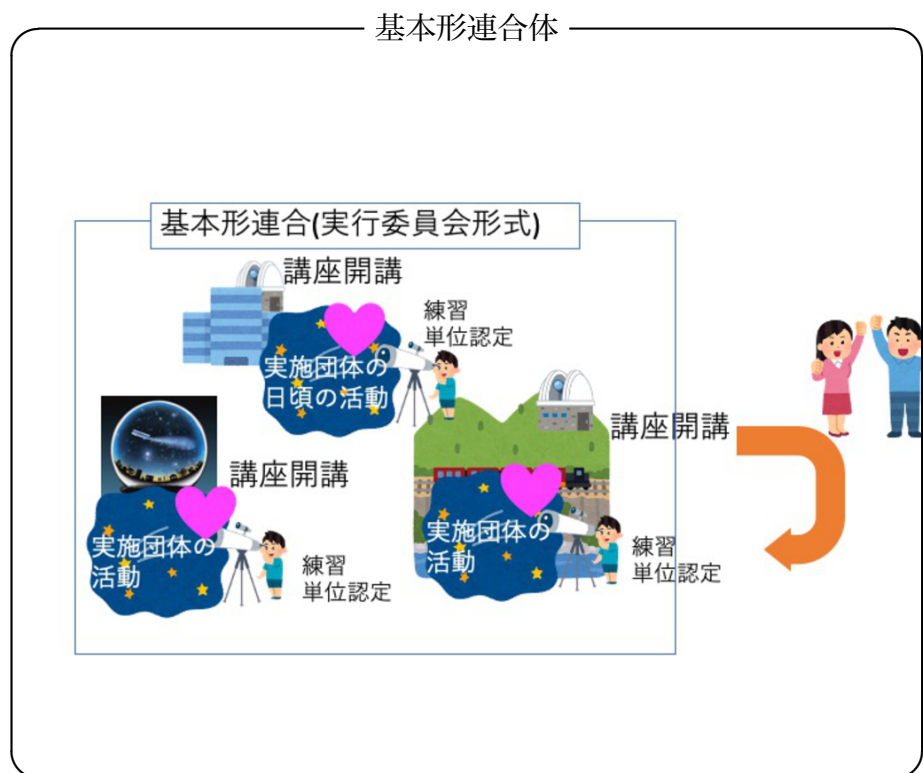
開催地がある程度以上離れている、あるいはそれぞれでミッションが異なる場合は、実施団体を二つに分けたほうがスッキリした運営ができますのでそちらを推奨します。



複数開催地：

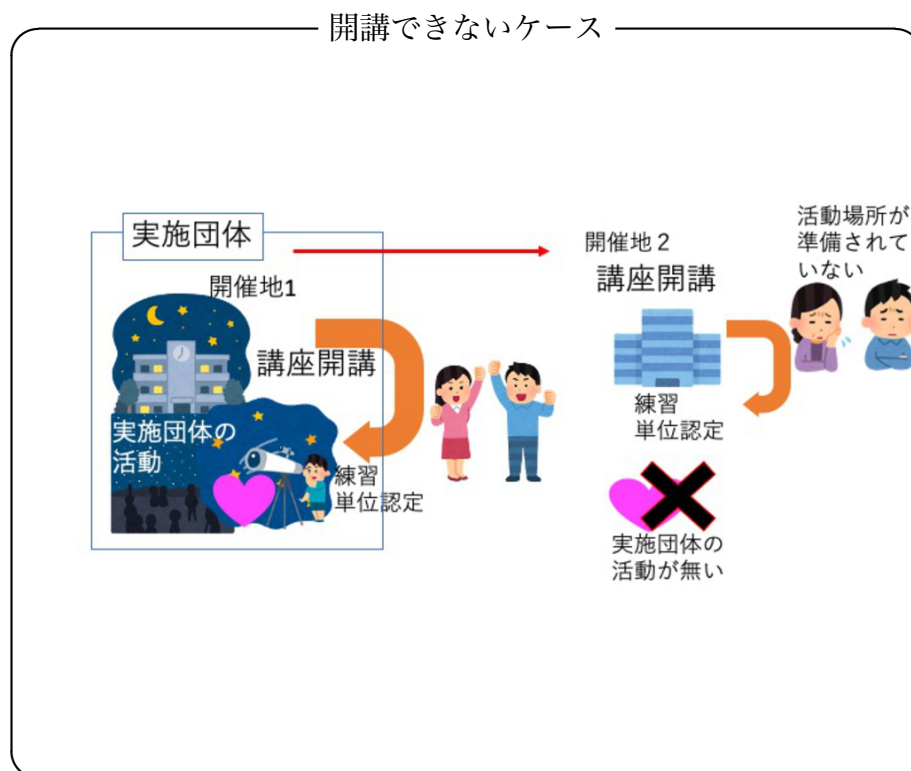
- 一つの団体が複数の施設の指定管理などを受けて行う場合。
- 一つの団体が離れた地域で複数の拠点を持つため、それぞれの拠点で申請し、複数の実施団体として活動している場合。

基本形連合体 基本形をもった組織が共同して、複数の市町村にまたがる地域に対して活動する場合があります。全体として実行委員会などを作り、その委員会が実施団体になります。



実施団体であっても講座を開講できないケース 実施団体が新たな開催場所に拡大しようとする場合は注意が必要です。

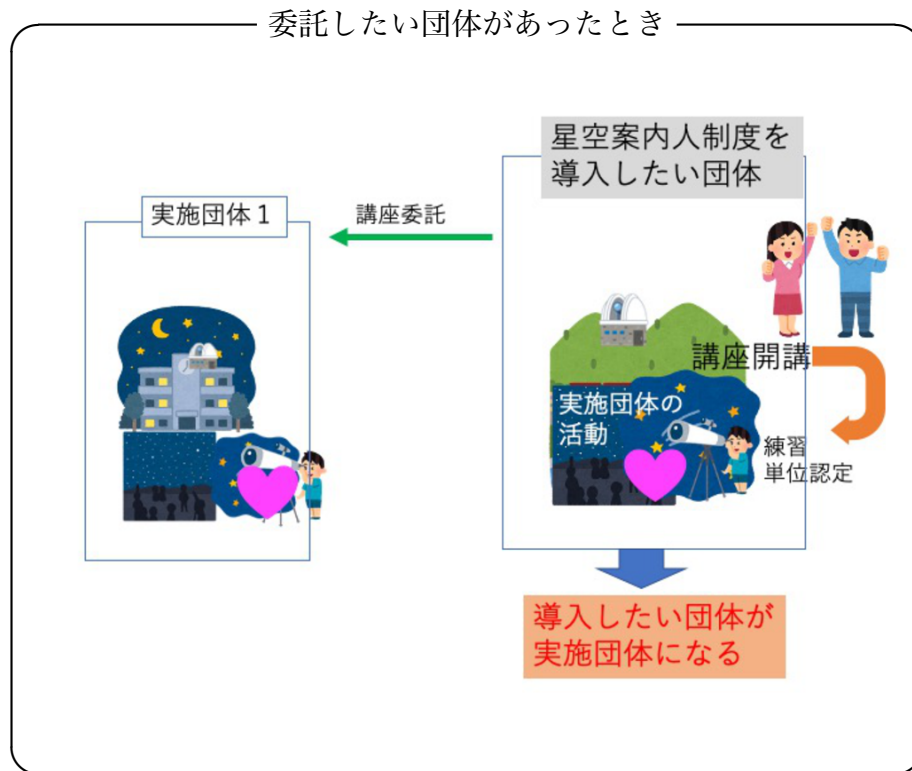
新しい場所に活動の場所が無いときは、条件を満たさないので新たな開催はできません。先に述べた、複数実施団体のスタイル(それぞれが活動の場を持っている)になるよう計画すれば実現可能になります。



ある団体から開催を委託される場合があるかもしれません。これもそのまま受託することはできません。委託した団体はそれ自身のミッションをもっており、独自の育てたい案内人像をもっていることが前提になります。その育てたい案内人像は受託する団体を持つ案内人像とは一般的に異なるものだからです。

この場合の解決方法は、

- (1) 制度を導入したい団体 (委託したいと思った団体) が実施団体になってください。
- (2) 受託側に委託側のミッションや育てたい案内人像を伝え、同意してもらってください。
- (3) 講座運営の一部あるいは全部を委託するときは、委託して実施団体になるための申請書が別にありますのでその様式で申請してください。



第2章 講座運営

2.1 講座運営の典型パターン

講座実施から認定までのもっとも標準的な進め方を紹介します。制度規則だけでは実際の講座運営のイメージが湧きにくいと思いますので以下を参考にして計画してください。細かいコツは幾つかありますが、まずはミニマムを書きます。

2.1.1 準案内人資格取得まで: 星空案内人(星のソムリエ)講座

以下の科目の講座およびオリエンテーションを行います。

- (1) オリエンテーション(受講が円滑に進むための説明)
- (2) さあ、はじめよう(講義科目)(100分以上)
- (3) 星空の文化に親しむ(講義科目)(100分以上)
- (4) 望遠鏡のしくみ(講義科目)(100分以上)
- (5) 星座を見つけよう(実技科目)(100分以上)
- (6) 望遠鏡を使ってみよう(実技科目)(100分以上)
- (7) 星空案内の実際(実技科目)(100分以上)

- 講義内容は講義要綱に従って実施してください。
- 科目の順番は制限しませんが、受講生の予備知識や興味を考慮して決めてください。
- 100分は満たすべき最低限の時間ですので、可能なら増やしてください。100分の場合も連続ではなく50分二コマにして学びやすくしましょう。

- 遅刻・早退について 15–20 分程度の時間をあらかじめ受講生に連絡し、定められた限度以上の遅刻・早退は欠席扱いにします。
- 実技の**練習**は講座とは別に時間を設けます。詳しくは 2.1.4 をご覧ください。実技科目では、実技の説明や背景となる考え方の説明など丁寧にしましょう。もちろん実際に機器に触れていただくことは必要です。この時、初めて望遠鏡に触れるという方もおいでです。
- 講師と受講生、受講生同志の交流は星空案内人が育つためには重要ですので交流の時間を講義以外に設けるようにしましょう。
- 受講生はいろいろなところで戸惑います。オリエンテーションは複数回行うことをお勧めします。

各科目は、月に一回または二回程度の頻度にして、間隔をあげ、全体として半年から一年のコースにすることを運営機構では奨励します。合宿という開講形式も認めていますが、星空案内人の養成の効果は劣ることを覚悟してください。合宿の場合、十分な自主学習時間、交流の時間が持てるように特段の注意を払ってください。また、合宿後のケアについても十分対策してください。

2.1.2 講義科目の単位認定

講義の出席後、各自が自宅で単位認定レポートを完成し、後日、実施担当に提出します。講座スタッフまたは講師が採点し、採点結果を受講生に返却します。不合格の場合は何度でも再提出できますので根気強く合格までご指導をおねがいします。

合宿形式の場合は、レポートに取り組む時間を設けてください。合宿期間内に完成しないときも後日採点や合否判定ができるようにしてください。

- 合格レポートはコピーして、受講者と実施団体両方で原本あるいはコピーのどちらかを保持し、単位認定のための証拠書類として、資格認定の際トラブルにならないようにしてください。
- 出席とレポートの合格の両方が揃うとその科目の単位が認定されます。
- こんな受講生がいたら：
 - ・ 出席しなくてもレポート 100 点ならば単位認定してくださいと言う受講生が時々いますが、星空案内人制度では受講の中で質疑応答するなどコミュニケーションを重視しますので、受講しないでレポートだけの合格では単位認定にはなりません。
 - ・ 講座当日にレポートを完成し提出したいというせっかちな受講生さんが時々いますが、経験的には不完全なことが多く、もし家庭で再度取り組んでみると新しい疑問が湧いて調べなおしということになるものです。その日は受け取らず一度自宅で再チェックしてからの後日受け取りをすることをお勧めします。

実施団体は受講生の成績管理表を作成し、出席、レポートの合否、単位取得の有無を記録してください。実施団体の成績管理表の保管義務は講座終了後 5 年間です。なお、それ以上の年限がたっても資格認定の単位としては有効です。受講生が持っている返却レポートが証拠書類となりますので受講生にその旨をお伝えください。

2.1.3 準案内人の認定

ここまでで、多くの受講生は準案内人の資格認定基準を満たすことができますので、まず、準案内人の資格認定をしましょう。なお、資格は受

講生に資格認定書発行申請書を提出してもらい、申請者に対してのみ判定して資格を発行してください¹。

講座終了後、準案内人の認定書授与式を行うとその後の活動に弾みがかかるので認定書授与式と懇親会の開催をお勧めします。

2.1.4 準案内人から案内人へ

講座終了後、観望会、練習会など様々な機会を実施団体は準備し、それらの機会を利用して、準案内人の資格を持った受講生²は実技科目の練習、そして実技試験の実施へと進みます。通常、半年から一年あるいはもう少し時間をかけて順次実技科目の単位取得を目指します。この間に、仲間同士のコミュニケーションや案内人になってからの活動の基盤が作られていきますので重要な時期です。そして最終段階でいわゆる路上試験のニックネームを持つ星空案内の実際の実技試験を行い、合格すると星空案内人の認定となります。(なお、スケジュールなどの都合で実技試験の実施順序が前後して、星空案内の実際の実技試験が資格取得のための最後の単位認定にならなくても問題ありません。)

2.1.5 実技科目の単位認定

全ての実技試験は、実技試験の「認定チェックシート」を用いてチェックシートに記載されている指示に従って実施してください。星空案内人制度の認定基準のページに公開されている認定チェックシート以外の方法では単位認定はできません。

¹受講生の申請がないのにも関わらず、実施団体が資格認定書を発行すると、受取人のいない認定書が発生し処分に困ることがあります。また、万一、認定取り消しの事態になった場合も受講生の申請に基づいて発行していたという経緯があると申請のあったものを却下するという意味になるので法的な取り扱いがシンプルです。

²準案内人を取ってから実技科目の練習を開始する方式を二段ロケット方式とよんでいます。制度規則上は、受講生はまだ準案内員の資格を持っていない時から実技練習、場合によっては実技科目の試験を受けることは可能ですが、その場合、実施団体の負担が大きくなりすぎ苦労した経験から生まれたのが、まず、準案内人、つぎに、実技練習から案内人へという二段ロケット方式です。

- 合格の記録がされた認定チェックシートはコピーして、受講者と実施団体両方で原本あるいはコピーのどちらかを保持し、単位認定のための証拠書類として、資格認定の際トラブルにならないようにしてください。
- 各科目の出席と単位認定チェックシートの合格の両方が揃うとその科目の単位が認定されます。
- 星空案内の実際の実技試験が合格し、条件が整ったら、受講生に資格認定の発行申請書を書いて提出してもらいましょう。申請に基づいて実施団体は資格条件を満たしているか判定し、満たしていれば資格認定書を発行します。活動の時に名札として利用できる名前と写真の入った認定証の発行も合わせて行います。

準案内人のうち案内人を取得するのはおよそ 10%-20%程度が目安です。実技科目の指導はスタッフの負担が大きいです、貴重な人材となります。案内人に進みたい方へのご指導をお願いします。

一方、準案内人までで良い(案内人に進まなくて良い)と判断された方の重要性に注目してください。案内人の資格をとった方が星空案内に活躍する人で、案内人に進まないと考えた人は落伍者/あるいはそれほど熱くない人といった考えを決してしてはいけません。実際、全国の星空案内活動の様子を見ると、準案内人資格をとって活動している方のパワーがとても大きく、目を見張るものがあります。準案内人資格取得で星空案内の活動は十分にできますし、日常生活の隅々まで活動が広がるという意味では人数が多い準案内人の活躍がむしろ重要です。実施団体は、準案内人の方とコミュニケーションを持ち続け活動することを強くお勧めします。

2.1.6 資格取得後

この制度の実施団体は、ミッションに合わせた育てたい案内人像をおもちのことと思います。その実現を目指して活動してください。

準案内人、案内人、あるいは受講のみの方と連絡網を確立し、一緒に実施団体の活動を盛り上げるように企画してください。また、案内人さんの立場になってみると、生みの親である実施団体の準備する活動場所はとても頼みになる場所です。実施団体は活動場所の提供に努めてください。

運営機構では星空案内人資格制度の発展のために様々な活動を行なっています。

資格発行を目的とした案内人養成は制度として認めていません。

制度の実施団体として認められた団体が、別の団体から講座の委託を受けた場合は、委託者がまず制度利用のための申請をするようにしてください。(専用の申請書が準備されています。)

ver.2020.9.1

2.2 キット望遠鏡の使い方

講座の中で組み立てキットの望遠鏡を講座の中でどう使うかについて、実施団体から何回か相談をうけました。そのつど、運営機構でも検討しました。それらをまとめてみたいと思います。

2.2.1 工作キットの望遠鏡で「望遠鏡を使ってみよう」の単位認定はできるか

「望遠鏡を使ってみよう」の講義で想定している小型の望遠鏡の操作スキルは工作キットの望遠鏡のものとはかなり異なるものです。したがって工作キットの望遠鏡で「望遠鏡を使ってみよう」の授業や単位認定はできません。

「望遠鏡を使ってみよう」で学ぶべき重要なスキルで、工作キットの望遠鏡で学べないものは以下です：

- 望遠鏡の設置において、望遠鏡のバランスを取ること
- ファインダーを調節すること
- 粗動と微動の操作によって天体を導入すること

2.2.2 星空案内人の資格をキット望遠鏡を使った星空案内で取得

工作キットの望遠鏡では「望遠鏡を使ってみよう」の単位を取ることができませんが、それでも他の科目の単位をとって星空案内人になることはできます。

路上に立って、通りがかりの人をつかまえて、望遠鏡を使わない星座案内とキットの望遠鏡を使った星空案内を併用して楽しい星空案内ができます。キットの望遠鏡では月面や惑星、二重星などを観察することができます。私は個人的にはこのスタイルの星空案内は好きでよくやります。

また、このスタイルで星空案内の実際の実技試験を受けて合格し、案内人になった方もおいでです。難しい機械操作は苦手という方は、裸眼とキット望遠鏡を中心とした星空案内で路上試験に挑戦してはどうでしょうか。



工作キットの望遠鏡で星空案内@街角

2.2.3 望遠鏡の仕組みを知る

望遠鏡の仕組みを知るという目的では、工作キットの望遠鏡はとても勉強になります。講座の中の「望遠鏡のしくみ」の授業の補講として工作をみんなでやるととても楽しい講座になります。

みんなで同じ望遠鏡を持つので受講生が共通の話題を持つことができます。同じ望遠鏡を使っているいろいろな使い方をLINEグループなどで交換して盛り上がっている姿を毎年決まって目にします。小さな望遠鏡と携帯電話のカメラで素晴らしい映像が撮れていて私もびっくりすることがたびたびです。

自作の望遠鏡ですので改造したり、実験することも可能です。

ということで、講座の中に工作の時間を組み込むこともお勧めです。

第3章 星のソムリエ

3.1 星のソムリエとは？と聞かれたとき

星空案内人(星のソムリエ)とはどんなものかを PR 用のチラシや講座の募集要項、自己紹介に書きたいとき、どんな表現が良いか？これはなかなか難しい問題です。以下はそのような目的のための文章の例です。ご利用ください

_____ チラシなどでの短い導入 _____

星空案内人とは 星空案内人資格認定制度とは？

星空や宇宙は、見たり、感じたり、学んだりすることで、人生を豊かにしてくれます。星空案内人はこのことをみなさんに伝えます。

「星・宇宙が好き」という気持ちを持つ誰もが星空案内人になれるように導いてくれるのが星空案内人(星のソムリエ[®]) 資格認定制度です。

星のソムリエ[®] は、星空案内人資格認定制度運営機構が管理・運用する商標です。このコンテンツは、星空案内人資格認定制度運営機構の承認や推奨、その他の検討を受けたものではありません。

_____ ちょっとくわしく _____

[ソムリエのイメージ]

レストランではソムリエが季節や料理に合わせておいしいワインを選んでもくれ、また、楽しい会話でテーブルを盛り上げてくれるでしょう。同じように「星のソムリエ[®]」は、季節や場所がらに合わせて美しい星空を見せてくれたり、その場にいる皆さんの好みに合わせて、星空や宇宙の話をしてくれます。どちらのソムリエにも大切なことは知識・技能よりおもてなしの心ですね。

星のソムリエ[®] は、星空案内人資格認定制度運営機構が管理・運用する商標です。このコンテンツは、星空案内人資格認定制度運営機構の承認や推奨、その他の検討を受けたものではありません。

[星空案内人はどんなひと?]

星空や宇宙は、見たり、感じたり、学んだりすることで、人生を豊かにしてくれます。さらに、このことを人に伝えるのが星空案内人です。星空

や宇宙を通じて、多くの人と共感し、社会を豊かにすることを星空案内人は目指しています。

[なぜ、資格認定]

星空案内をしてみたいと思っても、それはなかなかハードルが高いことです。しかし、ほんの小さなことでも星や宇宙について知りたいたくさんの方が待っています。そこで、「星が好き」という思いだけでも、あなたの背中をちょっと押してくれて、少し自信がつく資格があると、星空案内の道に一步踏み出すことができます。そこで、星空案内人資格認定制度が作られました。講座を受けてまずは星空案内人(準案内人)の資格をめざしましょう。

[学んでハッピー、伝えてハッピー：ハッピー二乗の法則]

星空案内人資格認定制度の講座を受けることで基本的な知識や技能を学び、星空を体験することができます。これは楽しいことです。これが一つ目のハッピー。つぎに、学んだことを語り伝えることで喜んでいただけます。星空案内を楽しんでいただいてもうひとつのハッピーを感じます。

学ぶことによるハッピーと人に伝えることによるハッピーと、二つのハッピーによって星空案内人はいつも元気です。これをハッピー二乗の法則と呼んでいます。

[認定基準は]

この制度は、星空案内に必要な高度な知識や技能を認定するためのものではありません。ハッピー二乗の力をかりて、星好きの誰もが一步前進するためのものです。この制度によって多くの方が星空・宇宙に触れることをめざします。星空・宇宙に親しむ文化を普及します。

この目標にふさわしい認定基準を設け、全国同じ基準で資格認定をしています。

[星空案内人と星空案内人(準案内人)]

資格は二段階: 最初のステップが「星空案内人(準案内人)」, 次のステッ

プが「星空案内人」です。それぞれ必要な科目の単位取得と講座出席によって資格が与えられます。

(くわしくは、こちら [HP])

[星のソムリエ®] 星のソムリエは「星空案内人(準案内人)」、「星空案内人」のいずれにも使うことができる資格の愛称です。「星のソムリエ®」は商標登録され全国の星空案内人の皆様が大事に使っていることばです。「星のソムリエ」を使用するときは、使用のガイドラインに従うようにしてください。

(くわしくは、こちら [HP])

資格をとってからどんな活動をしますか

資格をとったみなさんは、いろいろな活動をしていらっしゃる。たとえば、

- ・自分の子供や身近な人に星の話をしたり、野外で星を見せたりする。
 - ・科学館や天文台、星空関連の同好会の中で星空観望会など、ボランティア活動をする。
 - ・スキルを磨いて、講演活動、科学館やプラネタリウムなどの仕事に従事する
 - ・観光地などで星空案内のガイドツアーを行う
 - ・星や宇宙に関する執筆稼働をする
- など。

本当にいろいろな方法で資格を自分の生活に活かしていただいています。

資格はいらないけど星や宇宙について勉強したいときは？

星空案内人資格認定講座は、ちょっと宇宙について勉強したいというかたにもとても良い講座内容です。講義内容は非常に幅が広いのできっと満足いただけます。気軽に講座をうけてみてください。そして、私も星空案内人できるかな？と思ったら資格にも挑戦してみてください。

星空案内人資格認定制度は誰がどんな目的で行なっているのですか？

これまで述べてきたような特徴や目標を星空案内人制度は持っています。

この考えに賛同して講義内容の検討や認定基準を考えたり、全国でこの制度で資格認定をしている団体のお世話をしようと思った有志が集まって「星空案内人資格認定制度運営機構」という組織を作ってこの制度の運営に当たっています。ホームページに、メンバーや歴史が掲載されていますので参照してください。

ver.2020.9.1 (original form), rev.2020.9.18,